

## サドベリー教育のスタッフが大切にしたいこと

一般社団法人茨城サドベリースクール

代表理事 田中邦東

### 1 サドベリー教育の理念

サドベリー教育は、「子どもには自ら学び、育つ力が備わっている」「人は学びたいと思った時に最も良く学ぶ」という理念のもと、子どもたちが好奇心に従って、自ら学ぶことのできる環境を保障します。

サドベリースクールでは子どもの尊厳を最大限確保します。それは、子どもの人格を尊重し、子どもが自分のことを自分で決め、自分らしく生きることを大切にすることです。

サドベリー教育では、大人が用意した一方的な授業やカリキュラムは無く、評価のためのテストもありません。年齢によって分けられたクラスではなく、異年齢の子どもたちが一緒に過ごします。スクールにいる間、子どもが何をするかは完全にその子の自由です。子どもたちは、自分が興味をもったことに没頭し、自らの力で学習を進めたり、仲間たちと協力したりして、それぞれの人生に必要なことを学んでいきます。

サドベリースクールには予め決められた校則はありません。しかし、多様な個性を持つ子ども同士が共同生活をする上で、自ずとルール必要性に気付いていきます。そこで、自由の相互承認を土台に、みんなが安心安全に過ごすためのルールを自分たちでつくることとなります。そのための話合いの場として、「スクールミーティング」が随時行われます。

サドベリー教育では、このスクールミーティングが重要な役割を果たします。ミーティングでは、子どもたち一人一人がスクール全体の運営に参加します。ここでは、ルールや制度の決定、スクール内の物品の利用、トラブルの解決などに関する意思決定が行われます。子どもたちは一人一人が平等な立場で参加し、自分の意見を述べ、スクールの運営に責任を持ちます。このことは、子どもの自己決定力やコミュニケーション能力を培い、自らの人生を切り拓く上で大切な、社会の一員としての自覚や主体性を身に付けるプロセスの一環となります。

サドベリー教育の最大の目的は、子どもが「自分を生きる」ことです。全ての子どもには、世界に一つしかないその命の価値を最大限に発揮し、幸せに生きる権利があります。子どもの人生は子ども自身のものです。私たちスタッフは、それを支えるための教育環境を整えていきます。

### 2 サドベリー教育における大人（スタッフ）の役割

サドベリー教育では、子どもたち一人一人が自由に過ごすことができ、みんなにとって安心安全な場となるような環境づくりが求められます。それをサポートする大人は、子どもが自分たちで場づくりをしていくことを支えるために、次のようなことを「する」ことを心がけていきます。

- 恐れのない、温かな雰囲気、子どもたちが安心して伸び伸びと過ごせるようにする。
- お互いの個性や違いを尊重し合えるようにする。
- 子どもが自分の興味関心に基づき、思う存分好奇心を追求できるようにする。
- 子ども自身がしたいこと、学びたいことを、自分のペースで取り組んでいけるようにする。
- 子どもの考えや感情を大切にする。
- 子どもが抱える課題はその子自身の力で乗り越えられるよう、自分で解決方法を探していく過程を必要に応じて援助する。

- 子ども同士でトラブルが起きた場合は、暴力や悪口で相手を負かすのではなく、平和的に解決出来るようにサポートする。(お互いに折り合いをつけ、問題のない状態を見つけられるようにする)
- 長期的な視点に立って、子どもの成長を焦らずに見守る。
- 子どもたちからの気付きを大切に、大人も自分自身を振り返り、常に成長していく。

加えて、サポートする大人は次のようなことを「しない」ことを心がけています。

- 子どもを怖がらせたり、プレッシャーをかけたりしない。
- 他の子と比べたり、競争させたり、評価したりしない。
- 子どもが自分をマイナスに捉えたり、自分の成長の可能性を限定したりすることにつながるような声かけや対応をしない。
- 子ども自身が自分で自分のことが出来るようになっていくのを邪魔しない。(お節介をしない)
- 遊びや学びについては、子どもを誘導してやらせることはしない。
- その子の中から出てきた課題、疑問、悩みを大人が率先して解決しない。(子どもが自己実現していくのを邪魔しない)
- 他人を侵害しない限り、どんな価値観の子も否定したり、大人の考えを押し付けたりしない。

### 3 入会チェックシート (スタッフ・大人向け)

私たちが考える「サドベリースクール」とは、以下の★の項目を大切にしている学びの場です。ご自身との教育観と照らし合わせ、チェック欄に当てはまるものがないか確認してください。

(もし、1つでも当てはまる場合は、茨城サドベリースクールへの入会は適さないと考えてください。)

**★子どもが、自らの学びについて自己決定していること。**  
**スクール側が一方向的に設定するカリキュラム・行事がないこと。**

<チェック>例えば、以下のような考えはサドベリースクールの理念とは異なります。

- 学び、活動について子どもから何も動きがないときは、大人から提案してもよい。
- スクールへの入会や退会については、重要な事柄なので最終的には大人が決めた方がよい。
- お菓子やゲームなどについては健康・安全面を考え、大人だけで決める制限があってもよい。
- 読み書き計算など、子どもに最低限必要だと思う内容は大人が提案して学習機会を設けた方がよい。

**★子どもとスタッフはいかなる場合でも議決権を持ち、対等で、民主的にスクールに関わる全てのこと(日常のスクール運営や問題解決、予算、学費、人事等)を決めていること。**

<チェック>例えば、以下のような考えはサドベリースクールの理念とは異なります。

- 子どもの間でいじめだと思われるようなことがあったとき、子どもに任せるだけではなく大人が仲裁に入った方がよい。
- 子どもが大きな怪我をしないように安全面については大人が責任を持つべきだ。
- スクール運営は大人が中心となって行い、子どもは希望があるところだけに参加すればよい。
- スクールの予算や人事など、経営のことに関しては大人が責任を持つべきだ。

いかがでしたでしょうか。自らの教育観を振り返り、子どもの尊厳の確保と、大人の役割について、これからも共に考えていければと願っています。